

手術室を目指す看護学生が 在学中にできることチェックリスト

授業で手術看護に触れる機会が少なくても、学生のうちにできることはあります。
記事の内容をもとに、モチベーション維持と接点づくりの視点を、印刷しやすい形でまとめました。

このPDFの使い方

気になった項目にチェックを入れる
まだできていない項目は、今学期中に1つだけでも行動に移す
担任・アドバイザー・実習担当教員に相談するときのメモとして使う

在学中にできること

1. 手術看護に触れる機会が少ないことを前提にする 授業であまり扱われなくても、自分の関心が間違っているわけではありません。まずは「触れる機会が少ない領域だ」と理解しておく。
2. 手術室へ行きたい気持ちを持ち続ける 学生のうちに全部分からなくて大丈夫です。まずは興味を失わないことを優先する。
3. 手術室経験のある教員を探す 担任、アドバイザー、実習担当、成人看護学の教員などで、手術室経験のある人がいないか確認する。
4. 教員に『手術室に興味がある』と伝える 雑談レベルでもよいので、関心を言葉にして伝える。接点があるだけで情報が入りやすくなります。
5. ゲストスピーカーの機会を逃さない 現場看護師の講義があれば参加し、手術室に関する質問を1つ用意しておく。
6. 手術見学の機会があれば積極的に立候補する 学校方針で差はありますが、機会があるなら最優先で検討する。
7. 卒業研究・レポートで手術看護に近いテーマを考える 完全に手術室ど真ん中でなくても、周術期、患者不安、術後回復など近いテーマから入れることがあります。
8. 就職活動の相談で手術室志望を伝える 配属の可能性、教育体制、見学可否など、就職先選びにも役立ちます。
9. 手術看護に関する記事や本を少しずつ読む 一気に専門書へ行かなくても、まずは記事や基本的な解説で十分です。
10. 不安や迷いが出たら、一人で抱え込まない 手術室経験のある教員や、信頼できる看護師に相談する。

迷ったときの考え方

- ・学生のうちに全部を理解する必要はありません。
- ・「好きでいたい」「知ってみたい」という気持ちを持ち続けるだけでも意味があります。
- ・手術看護は、現場に入ってから見えてくるのが本当に多い領域です。

相談するときのメモ

誰に相談するか	担任 / アドバイザー / 実習担当 / 成人看護学の教員 / 就職担当 など
伝えたいこと	手術室に興味があること、見学したいこと、就職で手術室を希望していること
聞きたいこと	学内で手術看護に触れられる機会、卒研テーマ、病院見学、教育体制

自分用メモ

配布・保存用の補助資料です。必要に応じて印刷してお使いください。